

信州 山のプロフェッショナル



©2005 石塚真一/小学館

長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則1週間ごとにお伝えしている「島崎三步の山岳通信」。その特別連載として、毎年発行する「登山SafetyBook」に登場!

信州の山で多方面に活躍する“プロフェッショナル”の方々の声を、皆様にお届けします!(聞き手：編集部)

Vol.14 “山岳メディア”のプロフェッショナル

山と溪谷社

昭和5年(1930年)4月1日、大学卒業したての川崎吉蔵によって創設。翌年に山岳雑誌『山と谷』を創刊。山・スキー・アウトドア・自然・旅の分野で『登山の大衆化やゆとり』を提案する出版社として成長し続けています。今回の対談はYamakei Onlineの大黒柱の田中潤二と、編集者として雑誌やウェブに携わってきた西村健が担当しました。



田中 潤二



西村 健

—安全登山に繋がる情報を多岐に発信していますが、本誌読者の登山者が事前知識を実経験に生かす術をお聞かせください。

(西村)山と溪谷社では、昭和6年創刊の『山と溪谷』をはじめとする登山雑誌やウェブサイト『Yamakei Online』、ガイドブックのロングセラー『アルペンガイドシリーズ』などの書籍を通じて、山や登山の情報を幅広く紹介してきました。登山はスポーツやレジャーとしての側面に加えて、**知的な探求を伴う行為**です。



登山前には技術解説やコース情報といった実用情報を参考にさせていただき、下山後には山で得た課題を振り返り、書籍や雑誌を開いて、**自己研鑽へのヒントを探してみてください**。登山経験と読書を組み合わせることで、山の世界をより深く味わっていただければと思います。

—山岳メディアから見る登山者の傾向と安全対策の最新トレンドをお聞かせください。

(西村)山岳会が会員減少に悩む一方で、SNSなどで知り合った登山者同士の緩やかなつながりで構成されるパーティが増えているようです。また、メンバーのスケジュールに左右されない単独登山を実践する登山者も増加中です。山岳会が担っていた登山計画の管理や遭難時の通報・

特集・シリーズ

検索機能などに代わって、インターネットで登山計画を作成し、登山届を提出するスマートフォンアプリが人気を集めています。登山中の地図読みや下山報告までを一貫して管理できるこれらのアプリは、山岳会などに入っていない登山者にとって心強いツールになります。

また、山のプロフェッショナルによる民間の検索組織も各地で活動しており、「ココヘリ」のような位置情報を送受信する機器やヘリコプター、ドローンなども駆使して遭難者の捜索を有償で行っています。こうした民間組織による検索費用は本人が負担することになるので、これまで以上に山岳保険の重要度は高まっていますね。

—登山者が安全に山を楽しむために、ぜひアドバイスをお願いします。

(田中)安全登山のノウハウは、クラブや山岳会などで経験者から指導を受けるのがこれまでのスタンダードでした。山岳団体や山岳ガイドの講習会もありますが、出版社としては基本技術を一冊にまとめた本を通読することを提案したいです。安全登山のノウハウが俯瞰できる上、ステップアップの道筋も見えてくるのでおすすめです。また、遭難事例などを集めた書籍からは、山に潜むリスクや、遭難に至る登山者心理、万が一の際の対処法などを学ぶことができます。さらに、雑誌やウェブサイトを定期的にチェックすることで、登山に関する幅広い情報や季節ごと、地域ごとの山の注意点などを知ることができます。

—登山愛好家を情報で支える山と溪谷社として、今後の事業展開をお聞かせください。

(田中)月刊『山と溪谷』は通巻1000号を超え、まもなく創刊100周年を迎えようとしています。これだけ長く続けられている理由の一つは、変わらない山の魅力を発信しつつも、時代や登山の変化に合わせて新しい企画を提案してきたからだと思います。

さらに、2010年にはウェブサイトの『Yamakei Online』をリリースしました。ウェブというプラットフォーム内で登山に関する情報を提供する役割を果たしており、ウェブの特性であるリアルタイム性や双方向性などを生かしながら運営をしています。

また、2020年からはYoutubeチャンネル『山と溪谷ch』もオープンし、映像や音声による情報発信にも力を入れています。

山と溪谷社の企業理念には、「あらゆるメディアを通じて、山岳や自然関連の有益な情報を広く配信し続ける」というものがあります。



—雑誌購読者の特徴と人気記事を教えてください。

(西村) 子どもからお年寄りまで幅広い世代に読まれている『山と溪谷』ですが、読者層の中心は活字文化に慣れ親しんできた50～60代の男性です。首都圏を中心として、大都市圏にお住まいの登山者が多く、登山歴では10年未満の読者が半数を超えています。

人気記事はやはり日本アルプスや日本百名山といった主要山岳エリアの特集ですが、首都圏近郊の低山特集も好評です。最近では温泉、日本酒、鉄道といった旅の楽しみを登山に絡めた企画も人気でした。山岳エリアの現在を伝える企画として評価いただいたのは、登山道の維持管理の課題を掘り下げた記事や、山岳遭難の検証記事です。登山の楽しみだけでなく、気候の変動の影響や山岳環境の保全といった社会的なテーマも関心をもって読んでいただいています。

—ウェブ 閲覧者の特徴と人気コンテンツを教えてください。

(田中) 多くの人にご利用いただいているのが、「登山地図&計画マネージャ『ヤマタイム』」です。書籍や雑誌に掲載している登山者向けのオリジナル登山地図がスマートフォンやPCで見られるだけでなく、直感的に登山ルートを設定し、計画を立てられるもので、リリース以来、多くの人に愛用いただいています。ぜひ、自身の登山計画立案に活用していただければと思います。



また最近では、登山技術や季節のコースガイド、ギアやウェアなどに関するさまざまな読み物記事も充実させています。小社の雑誌・書籍などでも執筆を行う登山のエキスパートに、登山に関わる話題について書いてもらっています。ちょっとしたスキマ時間でも楽しめる読み物が中心なので、ぜひ読んでいただきたいですね。

—信州の山岳関係者へのメッセージをお聞かせください。

(田中) 日本アルプスをはじめとする信州の山々は全国の登山者の憧れですが、私たちが登山を楽しめるのは、自然の保全や登山道整備、山小屋の維持など、山岳環境を守る活動を続けられている信州の山岳関係者の方々のおかげです。

気候変動や生態系の変化、登山インフラ維持、山岳遭難の増加など、信州の山が直面する課題にはさまざまなものがあると思いますが、美しい信州の山々を守るため、山と溪谷社も情報発信などを通じて課題解決のお手伝いができればと考えています。

—山岳メディアの立場から、時代に即した媒体手法で安全登山に繋がる情報等を登山者に伝え続けて約100年。自信に満ちた熱い思いをお聞きしました。メディア情報を登山スタイルのブラッシュアップと自己研鑽に活用して、信州の山岳を安全に楽しみましょう！